

SDGs にみる生物多様性への企業の取り組み

～WEB サイトから、経団連加盟企業の生物多様性への取り組みを読み取る～

木村亮太、澤井利一、武藤陸、中島慶二（江戸川大学社会学部現代社会学科）

調査者：江戸川大学現代社会学科中島ゼミ一同（赤川康樹、有賀達也、木村亮太、
小河原翼、澤井利一、林佳祐、藤原智裕、星龍之介、武藤陸、渡辺海）

はじめに

テレビコマーシャルなどでも SDGs への取り組みをアピールする企業が見られるようになり、SDGs は日本社会にも広く浸透しつつあると思われる。SDGs に掲げられている目標（ゴール）には、廃棄物対策、地球温暖化対策、陸と海の生物多様性保全など、環境問題が取り上げられているが、生物多様性に関する取り組みは、地球温暖化問題や廃棄物問題に比べまだ少ないと感じる。

そこで、SDGs への取り組みに積極的な経団連の加盟企業が SDGs の取り組みとしてどの程度、どのように生物多様性問題を掲げているのかを調査した。

2 調査方法

全ての経団連加盟企業の WEB サイトを調べ、①WEB サイト上で ②SDGs という名目を掲げて ③SDGs の目標と自社の取り組みを明確に紐づけて 公表しているもの<これを「SDGS 取組として言及しているもの」とした>をすべてリスト化し、SDGs の目標のうち、14, 15 を生物多様性関係の目標と位置付けたうえ、どの目標が多く取り上げられているのか、などについて比較した。

3 結果と考察

加盟企業全社数 1427 社のうち、SDGs 取組として言及しているのは、434 社（30.4%）、していないのは 993 社（69.6%）であった。

SDGs 取組みの言及があったゴールを、言及されたのべ取組み件数で比較すると、環境関係のゴールは、廃棄物対策が 1 位、温暖化対策が 4 位、陸の生態系が 9 位、海の生態系が 14 位となった。生物多様性関係の取組みは廃棄物や温暖化に比べて企業の取組み意識が低いのではないかとと思われる。

さらに、一つの取り組みに対して複数のゴールに言及しているものが多いため、同時に言及されたゴールの数が少ないほど、取り組みに具体性があり、目標に焦点が絞られているのではないかと考え、単独で言及されたゴールの取組み数を調べたところ、廃棄物対策 77 件（13.4%）、温暖化対策 47 件（9.8%）、陸の生態系 28 件（8.7%）、海の生態系 17 件（8.3%）であった。廃棄物対策が最も焦点化されており、生物多様性関係は焦点化も比較的弱いことが分かった。